

編 集 後 記

わが国の海外技術援助の成果をふり返りながら、熱帯アジアの稲作の問題点を広い視野から検討しようとするはじめての試みであったマラヤ稲作シンポジウムが大成功のうちに終わり、ここにその報告、討論内容を、「東南アジア研究」マラヤ稲作シンポジウム特集号として発行する運びとなったことはまことに喜びにたえない。この充実した内容を醸成していただいた報告者をはじめとしシンポジウムの参加者全員に厚くお礼を申し上げたい。なかにはこの特集号のために報告の原稿を書き改めていただいた方々もあり、これらの方々に対しては編集者として特に深甚の謝意を表します。

なお「東南アジア研究」第2巻第1号（通巻第5号）に本特集号を第2巻第2号（通巻第6号）として発行する旨予告いたしました但編集の都合により第2巻第3号（通巻第7号）となりました。あしからずご了承下さい。また全く同じ内容のものが、はしがきだけをかえて、シンポジウムの共催者である農林省、海外技術協力事業団および京都大学東南アジア研究センターから発行されるもので、そのうち東南アジア研究センターの分が本特集号であります。

マラヤ派遣専門家の各位はシンポジウムの会場であった比叻山国際観光ホテルから眼下に広がるピワ湖をみて、かのペナンヒルからみるマラヤの海を憶いおこし、マラヤの稲作改良に献身したそれぞれの歳月をふり返り、再び熱い血を沸かしておられた様子であった。

本特集号の編集を終るにあたり編集者一同もまた南方農業の研究に対する情熱を新たにしています。

訂 正

「東南アジア研究」第2巻第2号に次のようなあやまりがありましたので御訂正下さい。

1. p.127. 左段、上から5行目。Harvard 大を Howard 大と訂正。
2. p.128. 彙報の常任委員会名簿中、幹事名として教養部教授吉井良三、医学部教授西占貢を加える。